

彦根市議会で田島議員が「ウインズ誘致」を蒸し返す

獅山市長「問題はさらに重大化！」

彦根市議会において田島茂洋議員（市政会）は昨年12月11日、獅山市長に「場外馬券売場誘致に同意するよう」求める質問を行いました。日本中央競馬会は私たちにに対し、昨年3月16日付けで「彦根へ進出する意思のないことに変わりはありません」と文書で通知して来ましたが、

しかし、田島議員は相変わらず、馬券売場誘致への市長同意を求めて執拗に質問を繰り返しています。誘致団体や田島議員達は、現在も誘致をあきらめることなく、運動を続けています。私たちも更に警戒を続けていかざるを得ないということになります。

開発協定書は有効か？

まず田島議員は「彦根市長と原開発委員会との協定書締結の開発業者は現在も同一であり問題はない」と市長を追及しました。

これに対し市長は「この開発協定書は平成10年2月10日に彦根市長と原開発委員会との間で締結され、既に10年近くも経過している訳で、現在も事業主が同一なのかどうかよく判らない。また事業計画自体もどの程度変更があるのか判らない」と答えた。

い。また、道路管理者や公安委員会の考え方についても当時と現在が同一であるかどうかよく判らない。このように10年間さまざまな状況が変化している訳で、同一であるかどうかという判断は到底しがたい。協定書の存在について否定している訳ではないが、そもそも10年も経って、それがそのまま使えるものであるかどうか、私は『それはちょっと無理じゃないの』と言いたい」と答えた。

交通問題・青少年問題は

次に、田島議員が交通問題や青少年問題について、市長の考えを質したのに対し市長は次のように答えました。

「国道8号線や国道306号線、或いは名神インターなどが接続しており、恒常的な渋滞が生じている地域で、更に深刻になってきたと思っている。築城四百年祭の状況を考える時に、休日などに場外馬券売場が重なった場合、彦根市の町中への車両の誘導が非常に困難になるのではないかと。そういう意味で前にも増して現状のような道路状況でウインズを開設

するということについては私としては反対せざるを得ないと考えている。

また青少年問題については、警備員の配置だけで解決できるものではない。やはり青少年の居場所というものを考えなければいけない。良い意味での居場所なら良いが、こういうギャンブル的な施設は悪い意味での居場所になりかねないということも十分に考えていくべきだ。

交通問題についても、青少年問題についても、『以前にも増して問題としては重大化している』とお考え頂きたい」

市長選公約に無いが？

続けて、田島議員は市長選の公約には馬券売場反対という公約が無かったのではないかと追求しました。

これに対し市長は「私は以前の市長の時代から一貫して馬券売場に反対してきた。『彦根市がこれからどういう都市であろうとするのか』こういう観点から考えていただきたい。名神の入口にこういうギャンブル施設があるということについて、それが良いのか悪いのかというように彦根市全体の事として物事を考えていただ

きたい」と答えました。

最後に田島議員がコンサルタントや要人との面談を求めたのに対し、市長は「私自身はこの誘致に反対で、私のほうから積極的にこの面談を要望する立場に無い。既に何回か面談しているが、話の内容は進展も変化も無い状況で面談してもあんまり意味が無い」と答弁しました。

このように獅山市長は田島議員の執拗な追及に対し、これまで通り場外馬券売場誘致反対の立場を明確にしました。